

学童クラブの量の見込みと確保策について（事務局提案）

1 量の見込みの考え方

（１）低学年は乖離度利用とする

- ・実績値と定員数、将来人口の推移から勘案し、「乖離度利用」の量の見込みが妥当。

（２）高学年は全体の５％とする

- ・これまでの親会議や学齢WGの議論において、高学年で示されているニーズ調査の児童数ほど通うことはないだろうとの意見がある。
- ・実際の学童クラブ運営者からは、利用者は多くないとの意見がある。
- ・公立の学童クラブでの利用率は約1.3%（24 / 1,773）、私立の学童クラブでの利用率は約2.0%である（35 / 1,773）、全体での利用率は約3.3%（59 / 1,773）となっている。
- ・ただし、今後は要保護児童への対応などが考慮される。
- ・そのため、高学年の占める割合を全体の５％と設定し、その数を量の見込みとする。

2 量の見込み

（１）低学年は乖離度利用、高学年は５％

【全体】 指標（単位）	実績値	定員数	量の見込み【低学年・乖離度+高学年５％】				
	H26	H26	H27	H28	H29	H30	H31
低学年・人／月	1,714	1,850	1,848	1,891	1,891	1,890	1,903
高学年・人／月	59(24)	—	97	99	99	99	100
合計	1,773	1,850	1,945	1,990	1,990	1,989	2,003

【北部】 指標（単位）	実績値	定員数	量の見込み【低学年・乖離度+高学年５％】				
	H26	H26	H27	H28	H29	H30	H31
低学年・人／月	1,074	1,190	1,148	1,174	1,174	1,174	1,182
高学年・人／月	39(14)	—	60	62	62	62	62
合計	1,113	1,190	1,208	1,236	1,236	1,236	1,244

【南部】 指標（単位）	実績値	定員数	量の見込み【低学年・乖離度+高学年５％】				
	H26	H26	H27	H28	H29	H30	H31
低学年・人／月	640	660	700	717	717	716	721
高学年・人／月	20(10)	—	37	37	37	37	38
合計	660	660	737	754	754	753	759

(2) H31 をピークとする補正

【全体】 指標(単位)	実績値	定員数	量の見込み【H31 ピーク補正】				
	H26	H26	H27	H28	H29	H30	H31
低学年・人/月	1,714	1,850	1,799	1,825	1,851	1,877	1,903
高学年・人/月	59(24)	—	67	75	84	92	100
合計	1,773	1,850	1,866	1,900	1,935	1,969	2,003

【北部】 指標(単位)	実績値	定員数	量の見込み【H31 ピーク補正】				
	H26	H26	H27	H28	H29	H30	H31
低学年・人/月	1,074	1,190	1,117	1,133	1,149	1,166	1,182
高学年・人/月	39(14)	—	44	50	56	61	66
合計	1,113	1,190	1,161	1,183	1,205	1,227	1,248

【南部】 指標(単位)	実績値	定員数	量の見込み【H31 ピーク補正】				
	H26	H26	H27	H28	H29	H30	H31
低学年・人/月	640	660	682	692	702	711	721
高学年・人/月	20(10)	—	23	25	28	31	34
合計	660	660	705	717	730	742	755

3 確保の内容

(1) 定員数に対する不足分(H31 合計 - H26 定員数)

	不足数(人)	整備すべき室数 (不足数 / 40 人)
全体	153	3.825
北部	58	1.450
南部	95	2.375

- ・ H31 の量の見込みの合計数から、H26 の定員数を引いた数値が不足数(人)となる。
- ・ その不足数を「40(人)」(学童クラブ1室の定員40名)で割った数が、不足する学童クラブの室数となる。
- ・ 北部で1.45室、南部で2.375室、区全体で3.8室が不足する。

(2) 確保策

- ・ 平成31年度までに北部で1室、南部で3室、合計4室の学童クラブ開設を目指す。
- ・ 既存の学童クラブと児童館の機能強化や、放課後子ども教室などの関係から、学校や教育委員会との連携強化に努める。